



いながわ



高橋 祐子



田野 香織

特派員報告

われら里山応援団！森林ボランティア「猪名川町里山倶楽部」

豊かな自然は町の財産であり、シンボリックな存在でもあります。今回は、「朽原めぐみの森」と「内馬場の森」の2つの里山をボランティアで守っている団体の登場です。

枯れた松の伐採現場取材

まず「朽原めぐみの森」での活動を取材しました。遊歩道から木が生い茂る山の急斜面に分け入りしました。

この倶楽部の主な仕事の一つが、遊歩道の整備です。枯れた木が遊歩道に倒れると危険なので切ります。こんな風に、遊歩道のそばの枯れた木を優先的に伐採しています。斜面の角度に対して、木の

高さや太さを考えてどの方向に倒すかを相談し、ワイヤをかけ、倒す方向に引っ張りながらチェーンソーを入れます。どどーっと松が倒れると、のこぎりやチェーンソーで短く裁断します。

「みなさん、こういう仕事の経験をお持ちなのですか？」と尋ねると「そういう人もいますが、私は全く違う業界出身です。」と、見事にチェーンソーを使う会員のお答えでした。

山の急斜面では、手近な木につかまっていけないとすべり落ちそうです。「なかなかハードな現場で、大変ではないですか？」とのこぎり作業中の男性に尋ねました。「これはまだ楽な方です。ひと抱えもある大木を、もっと険しい山奥で倒すこともよくあります。」と、ヘルメットの下の顔にこっと笑顔が返ってきました。

この作業が続いて、さらに2本の枯れた松を同様の手順で手際よく伐採されました。

休憩所へ下山

作業が終わり、遊歩道を歩いて下山しながらいろいろお話を伺いました。

「定年後、体力づくりのために始めたのがきっかけです。お金にならなくてもいいから社会のお役にたてればとも思いました。定年前には扱ったことのないチェーンソーに挑



▲作業を終えて休憩の楽しいひととき

草刈りなど別の作業をしているメンバーと合流です。休憩所はメンバーの皆さんの手作りです。伐採した木を利用して椅子のある、居心地のよい空間です。温かいコーヒーを飲みながらお話を

戦中。上達しつつあって楽しいですよ。」

「僕も、ずっと前から興味があった自然の生態を勉強したくて定年を機に参加しました。作業しながら目にとまった植物を、帰宅後に本で調べると、だいたい覚えて、今では見ただけで名前や性質などがわかるようになってきました。」

休憩所でのひととき



内馬場の森で「エドヒガン桜再生事業」



◀シカよけネットを付けて植えた苗木

一車ダムを見渡せる斜面を2カ月かけて整備し、昨年3月に20本余りのエドヒガン桜の幼木を植樹しました。景観のすばらしい場所です。数年後に花が咲き始める姿を想像しながらどうぞご覧ください。

伺いました。

「先程、本格的な伐採作業を拝見しましたが、この倶楽部ではいつもどんな作業をされているのですか？」

「この里山は枯れた松が多いので伐採作業をやっています。他にも草刈りや間伐をはじめいろいろな作業があり、季節や地形によって内容が変わるので、その時々で、それぞれ自分がやりたい作業やできる作業に参加します。」とのこと。

もう一つの「内馬場の森」では、生い茂る笹をほきみで一気に刈る作業をしておられました。

女性メンバーが、作業をして休憩所に帰ってくるメンバーを温かい飲み物や手作りのお菓子でねぎらう様子に心が温まりました。「もちろん、私達女性も作業に参加しますよ。太い木を思い切りばちっとはさみで切ると、気分爽快。」この倶楽部の活動に来るといつも気持ちよく交流されています。

編集集



ハイキングの人達や、毎年環境学習で訪れる小学校や幼稚園の年長組の子ども達が安全に利用し、美しい里山を堪能してくれるよう、丹精込めて手入れをしておられます。

「いながわ特派員」

毎回、10人前後が活動されており、ご夫婦や身内同士で在籍の人たちもおられます。仲がよく、温かい雰囲気のある倶楽部です。

また、自然が好きなのが集まっていて気が合うので、ここで親しくなって別の活動に発展することも多く、登山の会を結成したり、うどんを打ったり、しめなわ作りをしたりと、この倶楽部の外でも楽しく交流されています。



里山倶楽部 会長 日下 信義さん

自分のペースで楽しく活動できます

自然を愛する私達と一緒に、楽しみながら里山を守りませんか。どなたでも大歓迎です。

自分の都合に合わせて自由に参加できます。活動中

- 途中参加や帰宅もOK。道具やヘルメットは貸し出します。たくさんの方のご参加を、心よりお待ちしております。
- ◆活動場所 朽原めぐみの森Ⅱ 毎月第1日曜日と第3日曜日、内馬場の森Ⅱ 毎月第2日曜日と第4日曜日
- ◆年会費 千円
- ◆問合せ 産業観光課 (☎766-8709)